

学内研究組織（2024年度）

研究課題：「ポスト・インターネット社会における新封建主義の傾向とアセンブリ論の新展開」

## ポスト・インターネット社会における新封建主義の傾向とアセンブリ論の新展開

Neo-Feudal Tendencies in the Post-Internet Society and New Developments in the Theory of Assembly

水嶋 一憲 (Kazunori Mizushima)

二〇一〇年代には、人びとの「つながり」や「集まり」に関して、少なくとも二つの大きな動きが見られた。一方では、デジタルなつながりを制御する支配的インフラストラクチャーとして巨大プラットフォームが台頭し、他方では、「アラブの春」や「ウォール街を占拠せよ」など、公共空間における「集会＝集合形成（アセンブリ）」の試みが世界各地で展開された（それらは概して短命に終わったとはいえ）。コロナ禍以降、前者の動きは「企業プラットフォーム複合体」による独占的権力のもとでさらに強化され、「新封建主義」へと向けて加速しているのに対し、後者の動きはますます行き詰まりを見せて いるように思われる。

本研究は、プラットフォームに内包された新封建主義的傾向を多角的に分析するとともに、〈共（コモン）〉の再領有に基づく新たな集会＝集合形成（アセンブリ）論の可能性を探ることを目的とする。それを通じて、ポスト・インターネット社会における技術・権力・労働・メディアなどの新たな連関を学際的視点から解明する社会理論の基盤を構築することを目指す。

この目的に向けて、2024年度には、学術論文3件、新聞記事1件、学会・国際シンポジウムにおける招待報告2件という研究成果を挙げた。具体的には、以下の通りである。

単著論文「テスライズムを超えて：プラットフォーム資本主義の諸傾向と未来の再想像」（『メディア研究』106号、7–21ページ）

単著論文「工場と莊園としてのプラットフォーム」（『5 Designing Media Ecology』第2期02号、92–103ページ）

鼎談「ネグリ思想の継承と再考：メディア・環境・フェミニズム」（『現代思想』第52卷第7号、9–29ページ）

招待報告「情報的健康」国際シンポジウム（慶應義塾大学）

招待報告「プラットフォーム資本主義：中央集権化と労働形態の変容を考える」（日本メディア学会春季大会シンポジウム2、成蹊大学）

新聞記事「関心を制御する資本主義」（朝日新聞、紙面掲載版：第51438号13面／ウェブ掲載版：「アテンション・エコノミーへの警鐘 持続可能にするための構想とは」）

以上のように、本研究は 2024 年度に計 6 件の研究成果を通じて、研究課題を着実に進展させるとともに、学術界および社会に向けた積極的な発信を行うことができたと評価される。

さらに、これらの成果は、2025 年度より開始した科研費基盤（C）研究課題「プラットフォーム社会におけるメディア・技術・資本の新たな交差に関する学際的研究」へと発展的に継承されている。